

久納会計 FAX ニュース



インドに行ってきました

平成29年10月23日

Kunuh Accounting Office
久納公認会計士事務所

☆ 臨時休業のお知らせ

来月11月1日（水）、2日（木）は社員旅行のため、臨時休業させていただきます。ご迷惑をおかけしますが、何とぞご了承下さい。

毎年アジアのどこかに行っている視察旅行ですが、今年はインドに行ってきました。ただ、インドは広いので今回の視察は北部に位置する首都のデリーだけとなりました。

インドの人口は世界で2番目。今年の予想値は13億4千万人と、中国の14億1千万人に迫る勢いです。一人っ子政策を進めてきた中国に対し、自由なインドは人口構成も子供ほど多く、2024年には中国を逆転し、世界一位の人口国になると予想されています。

通貨はルピー

通貨はルピーで、1ルピーが1.8円くらいです。インドルピーは日本国内の金融機関では取り扱いが無く、両替することは出来ないため、現地で円からルピーに換えることになります。そして、そのルピー現金を円に戻すときには、両替した際の計算書が必要です。

インドは物価が安いときいていたのですが、行ってみてまず驚いたのは、意外な物価の高さです。インドの一般市民が買い物や飲食をするお店と、旅行者や海外駐在者が買い物や飲食をするところが違うことも大きな理由だと思いますが、支払ってみると思いのほか高く、日本よりちょっと安いかなというくらいです。原因の一つには20%の消費税があります。レシートを見て驚いたのが、約20%の消費税（インドではVAT、と記載）と10%のサービス料です。これで約3割上がるため、本体価格よりもかなり高くなります。

インドの賃金水準

インドの賃金水準はジェトロの資料で大卒初任給で7万円くらいと、日本の3分の1程度ようです。ただ、毎年10%くらいずつ上昇しており、企業経営上、大きな問題となっています。物価もここ10年は5%から10%のインフレになっています。

インドでは、まだまだ女性の社会進出が進んでいません。インドでは男尊女卑の傾向が強く、女性は教育を十分受けさせてもらえないことも多々あるようです。こうした男尊女卑の傾向はインドより西のアジアに強いようで、ミャンマーより東の、いわゆる東南アジアでは、女性は戦力であり、むしろ女性の方が男性より働くという話もよく聞いたのと対照的でした。

インド人の半分くらいがベジタリアン

聞いて驚いた話の一つがインド人の半分くらいがベジタリアンということです。ただ、ベジタリアンだからといって、健康的ではありません。不足するタンパク質を、炭水化物と脂分で補うので、肥満が多く、平均年齢も65歳くらいということです。

デリーの町

デリーはインドの首都で、市内はオールドデリーとニューデリーに分かれています。オールドデリーは、昔からの街でかなりごちゃごちゃな雰囲気です。一方、ニューデリーは官公庁を中心とした、新しく作られた街で、緑も多く、閑静な住宅街が広がっています。インドというと、きれいではない街をイメージされる方が多いと思いますが、ニューデリーはイメージと違います。不動産価格も高く、マンションも普通に億単位のようです。

ニューデリーの街で、もう一つ特徴的なのは信号が少ないことです。交差点は、ほとんどがロータリーになっていて、信号はありません。たまに信号があると、それは歩行者が渡るためだったりしました。

人口の65%を占めるヒンズー教の教えでは、アルコールは好ましくないものとされているせいか、飲み屋さんは本当に少なく、行く場所に困りました。酒屋も大きいものはなく、隠れたような場所にひっそりあります。

交通事情など

アジアの国はどこに行っても同じですが、ウィークデーはひどい交通渋滞が発生します。ひどいところでは7車線の道に9車線の車がひしめいており、オートバイでも隙間を縫って進めない状態でした。

なお、インドの車のナンバーワンシェアはスズキの合弁会社である、マルチスズキです。シェアは約40%あります。

企業誘致に積極的ではない政府

インドは海外企業の誘致に積極的ではありません。理由は、質の善し悪しはさておき、一通りの産業がそろっているからです。ご存じのように、インドは核保有国で有り、人工衛星も打ち上げています。タタのように、昔からの財閥も存在します。

したがって、国の方も「来たいなら来れば」という態度で、税制の優遇などはありません。インドに進出する日系企業はまだ大企業中心です。進出する目的としては、拡大するインド市場への販売や、アフリカ・中東進出の足がかりの確保です。しかし、進出した企業は、インドの地場産業との厳しい価格競争にさらされ、かつ日本人駐在員の多額のコスト（住宅、運転手、メイド、帰国費用）を負担しなければならず、利益を出すのに時間がかかる状況にあるそうです。今回訪問できませんでしたが、日系企業でも幹部社員まで100%現地人化してしまったところもあるそうです。

2016年11月高額紙幣の使用禁止

首相のモディが昨年採った政策に、高額紙幣の使用禁止措置があります。2016年11月8日、何の前触れもなく「明日から1000ルピー札と500ルピー札が使用禁止になります」と発表が有り、翌日から本当に使えなくなりました。一番高額な紙幣と2番目に高額な紙幣が急に使えなくなったわけですから、市場は大混乱に陥りました。日本でいけば、1万円と5000円が使えなくなったようなものです。これらの紙幣は、買い物は出来ませんが、預金することは出来たそうです。それでも通常の買い物は現金決済が多く、3番目の高額紙幣である200ルピーを求めて、人々が銀行に殺到しました。実際に現地の駐在員の方も1日銀行のATMに並んだそうです。

この政策は、裏金のあぶり出しと地下経済の排除を目的としたもので、市場は一時的に混乱しましたが、効果はありました。貯めてあった現金が表に出せなくて、燃やしてしまった人、川に流した人、自殺してしまった人もいたそうです。また、さすがにインドはITの国だけあり、この間に少額決済のアプリなどが普及したということでした。

現在は新しい2000ルピー札と500ルピー札が流通しており、支障はありませんが、今回の訪問メンバーの中には、古い500ルピー札を使おうとして、お店で断られた人もありました。

カースト制

インドで有名なことにカースト制があります。複数の現地日本人に聞きましたが、仕事上、日本人がカーストを意識することはないそうです。しかし、インド人はお互い意識しており、名前と職業でわかるそうです。そのため、お客様の方が、営業担当者よりも身分が低い場合、営業担当者がお客様の言うことを聞かないという営業上困った事態が発生することがあるようです。

インドのITが発達したのも、IT技術者という職業がカーストの中に入らないため、カーストからの脱却を図るために、多くの人材が流入したことも理由の一つになっているようです。

以上